

平成27年6月8日

江差町議会議長 打越 東亜夫 様

総務産業常任委員会

委員長 若山 明 廣



委員会調査報告について

本委員会に付託事件の調査事件について、会議規則第78条の規定により、下記のとおり報告します。

記

1. 調査事件

平成26年第3回定例会

発議第13号 栽培漁業に関する事務調査について

2. 調査の経緯と結果

本委員会は、平成26年12月24日に正副委員長会議、平成27年2月13日、5月11日、5月22日の3日間委員会を開催し、資料を基に担当課の職員の説明を求めるとともに、5月11日にはひやま漁業協同組合江差支所の協力を頂き、ナマコの養殖施設（浮沈式いけす等）の現地視察を行った後、漁師の方と意見交換を行った。

調査した結果について、別紙のとおり意見を付して報告する。



【意見】

日本海漁業は水産資源が減少し、近年、厳しい漁業経営が続いている。ホッケやスケトウダラ資源の減少、イカなどの来遊不振もあって漁業生産は大きく低迷し、加えて磯焼けの進行や海獣による漁業被害の増大、漁業者の減少・高齢化等、漁業経営は急速に厳しさを増している状況にある。

江差町の漁業経営においても、これまでの回遊資源等に依存した漁業経営では厳しい状況に直面している。そのような中、漁業の現場では、今後の漁業経営を見据えた栽培漁業における多くの試みを行っている。その現場の声を聞き、議会、行政がその成果をどう確立し、次の世代に引き継いでいくのか、一次産業の振興は我々の責務でもある。下記のとおりその対策を講ずるべきである。

記

1. 栽培漁業の振興について

近年、近隣町においても、天然資源の枯渇が心配され、獲る漁業から育てる漁業へ転換している地域が多くなっている。町では、一次産業の振興は今後の町づくりを進めていく上で重要な課題となることから、ニシン、さけ・ます等の放流事業の推進や、資源回復のための禁漁措置など、様々な漁業振興等に取り組んでいる。

特に、ナマコについては、近年の中国経済の繁栄を背景に需要が増え、単価の急激な上昇から、江差地区においても、浅海漁業経営者を中心に新規従事(着業)者が増加し、平成22年度の漁獲においては、漁獲量47.5トン、漁獲高約2億7千万円を記録し、漁業経営に大きく貢献している。このような中、新たな取り組みとして、つくり育てる養殖に着目し、若手漁業者を中心にナマコ養殖研究会を立ち上げ、更には北海道の補助金を活用し、浮沈式養殖いけすを整備し、試験に取り組んでいる。しかしながら、ナマコの種苗生産技術は確立されているものの、養殖技術の確立には至っておらず、各地区がこの取り組みに注目している。今後も積極的に支援、助成していくべきである。

栽培漁業全体の推進のため、北海道の補助金等を活用しながら、回遊魚種だけではなく漁家経営の安定対策、次代を担う後継者育成のため、今後も対策を講じていかなければならない。

一次産業の振興は町づくりに欠かせないものである。その一方で、農漁業の経営は年々厳しさを増している。町として、地域に根ざし努力している農漁業者への支援を強化し、通年で生業が出来るよう一次産業全体の下支えを行いながら、経営安定対策を積極的に構ずるべきである。